

## 事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和5年 3月28日

事業所名 上尾市つくし学園分室(職員15名回答)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	<input type="radio"/>		・国の基準を満たしております。動きの異なるお子様を1室でお預かりしているの、安全面への配慮から1日の利用定員を10名以内に調整させていただいております。
	②	職員の配置数は適切であるか	<input type="radio"/>		・法令で定められている基準以上の職員を配置しております。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	<input type="radio"/>		・利用者様の目の高さを意識して環境を設定するようにしています。 ・集中しやすいように、活動ごとにパーテーションを用いています。 ・視覚支援等を用いて、見通しをもちやすくする為の工夫や、お子様の要求を伝えやすくなるよう工夫をしております。
業務改善	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	<input type="radio"/>		・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の為、頻繁に手洗いや消毒をお子様にもしていただいています。室内や教材、玩具も必ず消毒を行っております。使う教材は共有を出来る限り避け個人で使用できるようにしておりますが、共有が必要な場面ではその都度消毒を行っております。空間につきましては、活動によって、より集中力を高められるようパーテーションを使用しております。
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	<input type="radio"/>		・毎日振り返りの時間をもうけ、設定や関わりが適切だったか話し合っております。定期的に園児の様子や成長、目標に沿って支援法の確認を職員間で共有しております。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	<input type="radio"/>		・平成30年度より実施し、業務の改善につなげております。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	<input type="radio"/>		・平成30年度より年に1回実施し、年度内に公表いたしております。

適切な支援の提供	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	・実施しておりません。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○	・研修を受けた職員がフィードバックを行い、職員全員の資質があがるように努めております。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか		○	・半年に1回のアセスメントの他、送迎時などに相談のあった内容等も含め保護者様の意向を確認し、児童発達支援計画を作成しています。
	⑪	子どもの適応行動の状況確認のために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	・現在は M-CHAT等の標準化されたツールは使用しておりませんが、理学療法士や言語聴覚士等専門相談の職員が確認している発達段階を職員も共有させていただき、お子様により適切な支援が出来るよう努めております。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか		○	・保護者様からの希望する支援を把握させていただいたうえで、職員間で個別支援会議を実施し、ご家族の意向に沿うよう支援内容を作成しております。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか		○	・一人一人の発達段階をふまえて活動を考えており、サービスの開始前後に日々の取り組みを話し合っております。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	・プログラムの予定や取り組み方について、月毎、週毎、前日、当日と話し合いサービス終了後、今後の継続的な支援内容の確認も行い、職員全体で取り組みを考えております。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	・様々な経験が出来るようにねらいを持っている内容と、経験の積み重ねから見通しをもって取り組める力をつけていただける内容を提供できるよう工夫しております。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか		○	・1対1で職員が配置できる日もあり、個々の発達に合わせた支援と、集団の活動から友達を意識していく事につながるような支援を組み合わせ、児童発達支援計画を作成しております。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	・毎朝職員ミーティングをして、利用者様を迎えております。また書面でも確認しています。

関係機関や保護者との連携	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・支援終了後に必ずお子様の変化や気づいた点、様子について職員間で共有しております。また日誌や会議録だけでなく、引継ぎノートなども活用しお子様の状況を共有しております。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		・お便りノートの他に日々の支援の振り返りも毎日記録しております。分室日誌や会議録等を記し、支援の検証・改善に努めております。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・半年に1回のモニタリングを実施し、児童発達支援計画の見直しや継続の判断を保護者様と行っております。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		・児童発達支援管理責任者を中心に相談支援専門員の招集に応え、会議に参画しております。今年度もコロナ感染症拡大防止対策のため、相談支援事業所との担当者会議や情報共有が電話連絡にて行われる事もあり、分室の保育士が直接対応させていただいている場合もございます。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		・必要に応じて、保健師や主治医と連携しサービスを提供しております。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		・必要に応じて、他の関係機関と連携を取っております。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		・医療行為等については、主治医からの医療的ケアに関わる指示書をもとに実施しております。また保険証、診察券の写しをいただき、緊急時、保護者様と連絡がとれない場合にも対応できるようにしております。
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・保護者様よりご希望があった際や了解をいただいた際には情報提供や情報共有をさせていただいております。	
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		・これまで当事業所を利用中に、就学に係る移行支援が必要な利用者様はおりませんでしたが、ご質問のあった際には情報提供させていただきます。	

保護者への説明責任者等	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	・児童発達支援センターつくし学園の職員を招いての研修や、県や市の発達障害支援者研修に積極的に参加し、職員の研鑽を図っております。必要に応じて、保護者様の了解を得て、併用している他の民間事業所との連携も図っております。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○	・今年度は、発達支援相談センター1階にある保育所園庭に年5回遊びに行き、自由遊びの中で同年代の保育所利用児と交流を図らせていただきました。保護者様よりいただいた要望をもとに保育所と調整した中で毎年交流の回数増を実現し実施させていただいております。
	②9	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	・上尾市、桶川市、伊奈町合同の自立支援協議会の子ども部会に参加し、地域の情報収集に努めております。
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	・保護者様とお便りノートだけでなく、日々の送迎時のお話もコミュニケーションをとらせていただく機会として大切に考えております。保護者様が相談されたいタイミングでお話しいただけるよう、相談しやすい雰囲気や体制作りにも努めております。
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○	・ペアレント・プログラムのような体系的な支援プログラムは行っていませんが、親子通園日を月1日設け、身辺自立に向けた支援方法や適切なかわり方、利用者様の集団生活の中での成長等、保護者様と職員が共有できるよう支援しております。今年度につきましてもコロナ感染症拡大防止対策の為、分散しての保護者会を実施致しました。、
	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	・利用開始時に重要事項説明書や契約書にて説明させていただいております。限られた時間の中でのご説明になり大変申し訳ありません。
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	・アセスメントの中で話のあった点について、保護者様の意向に基づき児童発達支援計画にまとめ、同意を得て支援をすすめていただいております。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	・半年に1回のモニタリング以外に随時ノートや面談など相談に応じ、発達や子育て支援の助言に努めております。また日々、送り迎えの際、保護者様とコミュニケーションをはかり、気になる事がありました際により相談しやすい関係づくりを心掛けております。

	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		・年3回(①8月 ②12月 ③3月)保護者会を実施し、保護者様同士の交流が深まるよう取り組ませていただいております。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		・相談や申し入れは可能な限り、速やかに対応できるよう体制を整えております。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		・毎月カリキュラム兼お知らせ『つくしんぼだより』を発行し、行事の際には別途詳細を載せたお知らせを発行しております。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		・職員は秘密を厳守し、書類も厳重に取り扱っております。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・可能な限り合理的配慮の観点に基づいた対応を心掛けております。またお子様に「伝えたい!」「一緒に遊びたい!」と感じていただけるような支援内容や関わり方であるよう意識して取り組んでおります。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		・分室独自では行っておりませんが、新型コロナウイルス感染症対策前は大きな行事の際は児童発達支援センターつくし学園との合同行事の中で地域の方との交流を図っておりました。
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		・それぞれに対してのマニュアルはあり、職員に周知し対応にあたっております。今後は保護者様へも入室時等にマニュアルを周知し、訓練を実施して出来るよう検討してまいります。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		・火災を想定した避難訓練を年2回、水害を想定した避難訓練(引き取り訓練含む)を年1回行っております。また非常時の食料なども、アレルギーに考慮した物を準備しております。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○		・服薬や発作については入室時に確認しております。予防接種についても個人台帳へ記入していただいております。継続のお子様に関しては変更点があった場合は年度の初めにご家庭にて追記をお願いしております。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		・食事の提供がなくご家庭よりおやつを持参していただいている為、医師の指示書はいただいておりますが、保護者様より確認させていただき対応しております。また制作に活用する教材の

				中にも、アレルギー物質がないように配慮しております。
④5	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・ヒヤリハット報告書を作成し、職員間で原因究明及び再発防止に取り組んでおります。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		・県などの虐待防止普及啓発研修への参加や、年一回の職場内研修を実施しております。またお子様への適切な支援を常に心掛けるため、虐待防止セルフチェックも年2回各自で行い、その後全体でも防止対策の共有を図っております。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		・椅子に座り続ける事が苦手なお子様の場合等、状況により職員が抱きとめ課業に参加していただきやすいよう支援させていただく場合がございます。その際には保護者様に事前にご了承をいただいたうえで、個別支援計画に記載しております。

○この自己評価結果(公表)は、事業所全体で行った自己評価です。